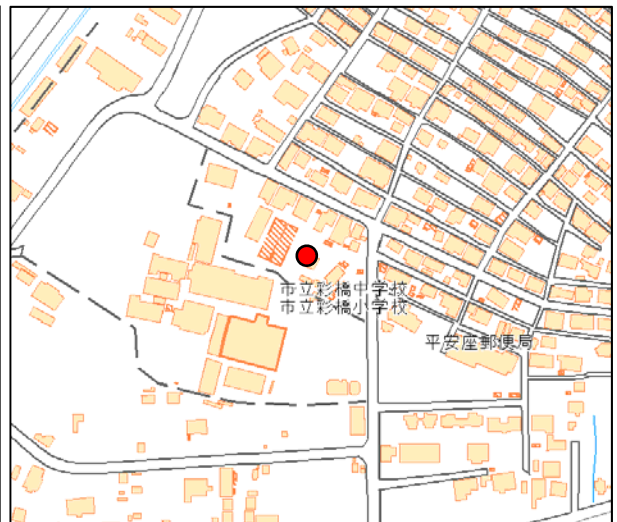


シヌグモのデイゴ(北)



認定番号 119

樹種名	デイゴ	科名	マメ科	方言名	ディーグ	学名	<i>Erythrina orientalis (L.) Murr.</i>					
形状・寸法	樹高 7.5 m	胸高周囲 2.9 m	根本周囲 3.5 m	樹幹占有面積 119 m ²			最大樹冠幅 12.3 m					
	枝下高 2.9 m	枝張 東 5.1 m 西 6.1 m	南 5.6 m 北 6.7 m									
通称	シヌグ毛のデイゴ(北)		樹齢 100年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有							
所在地	うるま市与那城平安座8164-2			状況	① 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 ⑤ 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他				気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 ⑥ 名木 7 その他 8 なし			(最寄りのア ダスタータ)		平均気温(°C)	16.4	17.9	19.5	19.8	22.9	27.0
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 ⑤ 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			降水量(mm)	126	69.0	147.5	192.5	415.0	84.5	
土地傾斜		① 平坦((0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:宮城島	平均風速	6.5	6.2	5.2	5.3	4.9	5.6
	土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 ④ 客土 5 その他 ()				風向	NNW	NNE	NNE	NNW	NE	SSW
基岩・母材					2013年	月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 ⑪ 海岸段丘 12 その他				平均気温(°C)	28.5	29.2	27.9	24.8	20.7	16.8
土性		1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 ③ 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			潮風の影響	降水量(mm)	2.0	19.0	82.0	205.0	129.0	84.5
	根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 ② 疎 3 なし				平均風速	5.1	4.9	6.4	8.4	5.4	5.7
管理状況		1 柵 a 有 ⑥ 無 (有の場合の高さ m、材質 () 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ⑥ 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 ④ 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ⑥ 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 ① 有 b 無 (有の場合 回数 種類 アトラック樹幹注入剤) 6 解説板 a 有 ⑥ 無 7 避雷針 a 有 ⑥ 無 8 定期的な草刈・掃除 ① 有 b 無 9 その他			日照条件	① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良						
	過去の治療歴と内容	東に面した幹に治療痕がある。				周辺樹木の影響	1 なし ② わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻(状況)					
故事来歴		1 無 ② 信仰対象 ウガン 3 禁忌(タブー) 4 祭事 ① 有 b 無 5 いわれの内容 シヌグ 6 不明			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③ 固結している ① 踏圧あり b 踏圧なし						
	視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない ④ 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)			周辺樹木との関係	1 影響なし ② 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						
特記事項		1 動物生息 a 有 ⑥ 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ⑥ 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 ① 有 b 無 (有の場合その数 生徒、父兄等) 4 その他										

地上部の衰退度判定（認定番号119）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.73

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係				○
根返り	○			
幹折れ			○	
大枝折れ				○
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壌硬度調査結果（認定番号 119 シヌグモのデイゴ(北)）

測定位置	植え柀内	
	表層土壌硬度	植栽基盤としての判定(硬さの表現)
認定木の東側	15.5	締まった
認定木の北側	19.0	締まった
認定木の西側	15.0	締まった
認定木の南側	14.0	締まった

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28.12.16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

山中式土壌硬度計の硬度	長谷川式軟らか度	植栽基盤としての判定	
		根の侵入の可否	硬さの表現
指標硬度	S 値 (cm/drop)		
27.0 以上	0.7 以下	多くの根が侵入困難	固結
~24.0	0.7~1.0	根系発達に阻害有り	堅い
~20.0	1.0~1.5	根系発達に阻害樹種有り	締まった
~11.0	1.5~4.0	根系発達に阻害無し	軟らかい
11.0 以下	4.0 より大	根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり	膨潤過ぎ

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き(Ver.5.3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

シヌグモのデイゴ(北)

部位	所見	対応
土壌	・表層は踏圧による固結が少し見られる。	・簡易な柵の設置、立入制限を検討する。 ・エアレーションの実施を検討する。 ・スポット状の土壌改良を検討する。
根	・踏圧により露出根に傷が見られる。	・露出根の踏圧防止のため、簡易な柵の設置、立制限を検討する。
幹	・地際部に草刈機によると思われる傷が見られる。	・草刈り作業時、幹の傍は剪定鋏を使用する等、幹へ傷を付けないような方策を検討する。
	・東側に治療痕が見られる。	・無し。
	・樹幹注入が施されている。	・着葉量が増えるまで実施しない。
	・外周はほとんど枯死している。南東部の一部のみ生きている。	・経過観察を検討する。
枝	・大枝は全て剪定されている。	・経過観察を検討する。
	・萌芽枝が多数発生している。	・経過観察を検討する。
葉	・落葉中のため着葉無し。	・経過観察を検討する。
備考	・2014年の台風により入り皮となっていた大枝の付根から折損、その後折損部を切り戻し剪定を行ったと思われる。土壌改良等により樹勢の回復を待つ。樹形の回復は困難であると考える。	

